

6月5日は環境保全への理解と関心を深める「環境の日」 ケンコーマヨネーズの環境に対する取り組みをご紹介します

ケンコーマヨネーズ株式会社（本社：東京都杉並区、代表取締役社長：島本 国一、以下「当社」）の環境に対する取り組みについて、本日6月5日の「環境の日」に際してご紹介します。

「環境の日」は、1972年6月5日からストックホルムで開催された「国連人間環境会議」を記念して定められたものです。国連では、日本の提案を受けて6月5日を「世界環境デー」とし、日本では環境基本法で同日を「環境の日」と定めています。

当社グループは、「心身（こころ・からだ・いのち）と環境」「食を通じて世の中に貢献する。」という企業理念のもと、持続可能な社会の実現を目指しており、本ニュースレターでは環境に対する取り組みの一部をご紹介します。

当社工場での取り組み

ゼロエミッションへの取り組み

2006年度より、3R活動に取り組み、特にReduce（発生抑制）を第一として廃棄物削減に向け、製造時における工程改善を実施しました。その結果、2007年度は廃棄物のリサイクル率90%以上を達成し、2008年度には自社工場全てでゼロエミッションを達成しました。毎年1回、各工場におけるゼロエミッション達成状況の社内発表会を開催し、最優秀工場、優秀工場には表彰状を授与しています。2015年度より連結子会社においても、ゼロエミッションの取り組みを始め、当社グループ全体のゼロエミッションを目指しています。

当社グループの3R活動

Reduce：発生抑制

動植物性残さ：製造工程改善、見直しによる廃棄ロスの低減
 廃プラスチック：原料の形態、容器材質の見直しによる廃棄物の発生抑制、製品形態見直しによる使用量の削減
 排水汚泥：脱水効率改善による減量化
 紙・金属類：ペーパーレス化実施による紙ごみの排出量の抑制

Reuse：再使用

通い容器として資材カートンの使用
 原料容器等の一斗缶の再使用

Recycle：再生利用

動植物性残さ：肉豚用液状飼料、堆肥、代替燃料等
 芋皮、澱粉：肉豚用液状飼料
 卵殻：肥料、飼料
 排水汚泥、廃プラスチック：堆肥、路面剤等



ポテト皮の液状飼料化 ～西日本工場～

2009年より、ポテトサラダを製造する際に発生するじゃがいもの皮等を工場内で液状飼料化し、養豚農場に供給しています。

卵殻パウダー ～静岡富士山工場～

厚焼き卵などのタマゴ加工品を製造する際に発生する卵の殻をパウダー状にし肥料・飼料として供給しています。

子ども食堂への商品提供 ～(株)関東ダイエットクック所沢工場～

当社の各工場では、フードバンク等への商品寄贈を定期的に行っています。また(株)関東ダイエットクック所沢工場では、子ども食堂へ商品提供による支援を行っています。

コンポスト事業 ～(株)関東ダイエットクック神奈川工場～

工場が発生する「野菜くず」を食品残さ発酵分解装置を活用して工場内で一次発酵させ、これをリサイクルセンターで堆肥化して農産物生産者へ供給するコンポスト事業に2018年より取り組んでいます。産業廃棄物であった「野菜くず」は堆肥飼料として生まれ変わり、農産物生産者へ供給されて野菜生産に使われるという、食品ループを生み出しています。「野菜くず」は発酵処理により最終的に約20%まで減量化できます。



グリーン冷媒機器の導入 ～御殿場工場、西神戸工場～

「冷媒」とは、熱を温度の低い所から高い所へ移動させるときに使われる物質です。圧力をかけることで液化・放熱、気化・吸熱を繰り返し、当社の各工場でも製品を保管する冷蔵庫やエアコン等に用いられています。冷媒の機能を持つ物質の中で最も有名なものにフロンが挙げられますが、フロンはオゾン層破壊が問題視され、現在は代替フロン化が進められています。今後は、よりCO2削減効果がある「グリーン冷媒」への転換が必要とされています。

御殿場工場と西神戸工場では、2022年2月にグリーン冷媒への機器変更を行い、CO2の発生を抑制しています。



↑御殿場工場で導入したグリーン冷媒機器

※単位は「CO2/年」、機器変更によるCO2削減効果

2023年度 CO2削減効果	御殿場工場 139t ※	西神戸工場 1,437t ※
---------------------------	-------------------------	---------------------------

当社事務所（東京本社）での取り組み

アスクル資源循環プラットフォーム

アスクル株式会社が行う、使用済みクリアホルダーを回収し、再資源化・再製品化する資源循環の取り組みです。当社では、2022年より本活動に参加し、事務所で回収した累計18.4kg（クリアホルダー換算：約700枚分）をアスクル株式会社に寄付しています。

<https://www.askul.co.jp/kaisya/shigen/>

charibon（チャリボン）

株式会社バリューブックスが古本買取の仕組みを活用して行う寄付活動です。職場や家庭で不要となった書籍や、DVDなどを集め、買取査定相当額を様々な分野で社会的な課題解決を目指す団体（NPO・学校・自治体）に寄付します。

当社では2022年より賛同し、22・23年度の累計で116点の書籍を寄付しています。

<https://www.charibon.jp/>

ニチバン巻芯ECOプロジェクト

ニチバン株式会社が主体の、粘着テープの巻芯を回収し、資源として再利用するエコ活動です。集まった巻芯は古紙回収業者が買い取り、ダンボールに再生されます。その利益と、巻芯の個数に応じたニチバンからの支援金を緑を守る取り組みに役立てています。

当社では、2023年より本活動に参加しています。

<https://www.nichiban.co.jp/project/makisin-eco/main7.html>

2023年の活動に参加した際の感謝状→



アイシティ ecoプロジェクト

HOYA株式会社が行う、使い捨てコンタクトレンズの空ケースのリサイクル活動。空ケースはゴミとして燃やさず、再製品化することでCO2削減に貢献。またリサイクルによる収益は、視力を取り戻す活動に寄付されます。当社では2018年より本活動に参加し、累計20.31kg（20,310個※1ケース1gで換算）の空ケースを回収、送付しています。

<https://www.eyecity.jp/eco/>

当社事務所に設置の空ケース専用回収BOX→



当社は今後も、限りある資源を有効に活用する方法を模索し、環境への取り組みに真摯に向き合い続けることで、持続可能な社会の実現を目指してまいります。

「本資料に関するお問い合わせ先」

ケンコーマヨネーズ株式会社 経営企画室 広報部 広報課 Mail: kouho@kenkomayo.co.jp